

第3回岩国市総合計画検討会 議事概要

■ 開催日時・場所

令和4年7月14日（木）14:00～16:00

岩国市役所 3階 31・32会議室

■ 次 第

- 1 開会
- 2 座長あいさつ
- 3 序論・基本構想について
 - ①序論・基本構想の修正箇所について（意見対応表）
 - ②基本構想の追加箇所について（人口推計）
 - ③将来像に対する御意見について
- 4 基本計画について
- 5 その他
- 6 閉会

議事録

1 開会

2 座長あいさつ

座長	御参集いただき感謝申し上げます。コロナも厳しい状況が続いているが、経済活動を回しながらコロナに対応するということを同時にやらなければならない状況下にある。 本日は、第3回検討会ということで、前回4月末の検討会で御意見をいただいた基本構想について素案が示されている。本日の趣旨は、基本構想をまずは固めていき、必要ところは加筆をしていくこと、また初めてお見せする基本計画の確認についてである。基本計画の全てを確認していると時間が足りないため、それぞれの専門分野の部分を中心に参加者の皆様から意見をいただきたい。
----	--

3 序論・基本構想について

①序論・基本構想の修正箇所について（意見対応表）

（事務局説明）

座長	皆様からいただいた意見を要約し、その対応について記載しているが、お気付きになられた点はあるか。現時点ではないようだが、次の追加箇所について事務局から説明いただき、まとめて質問を受け付けたい。
----	---

②基本構想の追加箇所について（人口推計）

（事務局説明）

座 長	意見対応と追加箇所を併せて御質問があれば受け付ける。なければ事務局から示した形で対応する。
参 加 者	課題や基本目標の文章について、「〇〇が必要です」「〇〇が求められています」という表現が気になる。外部からの圧力を感じる。「目指します」「推進します」といった前向きな言葉の方が読み手にも入ってくる。課題感だけ突き付けられて悲しい未来を見るよりは、先の明るい雰囲気を感じられる構想にされた方が良いと思う。
事 務 局	検討する。
座 長	行政文章的で馴染みにくい表現が多くあり、修正できる範囲で御検討いただきたい。
座 長	将来人口推計は、合計特殊出生率によって若干変わってくるが、残念ながら人口が増えることはなく、人口減少に対応していかなければならない。そうした中で、できる限り若者に残ってもらい、出生率を上げていく政策がうまくいくと、少しは上向きになるのではないかと思う。最近、総合計画において社人研推計をできる限り使用して客観的に推計を見せるという傾向があり、この形で記載することで問題はないと思う。次第の①と②については御了解いただいたという形で進めさせていただければと思う。

③将来像に対する御意見について

（事務局説明）

座 長	御感想をお聞かせいただきたい。将来像は提示いただいている案のどれが良いかや、別の案が良いなど、御意見があればいただきたい。
参 加 者	いかに人口が減少するのか、データを示していただいた。人口推計は結構な確率で当たる。このあとに将来像をと言われても難しい。将来、人が集まる仕事が岩国に残るか不安になる。市内には、長年にわたり大企業があるが、今一つ業績が上がっていないところが目立ってきており心配している。「ともに輝く」とあるが、輝きそうにない。
座 長	大きなフレームとしては、市民と一緒に努力しながら未来を切り開いていくメッセージを市民に向けて発することが趣旨かと思う。①は、歩くことと新しく創ることで、その結果として輝くということ、②は、時代、風土、人というキーワードを先に掲げ、それに向かって歩き出すというゴールを先に見つけるタイプ、③は、一つの名詞に対してそれぞれどうするかということを並列的に書いている。文章表現の問題かと思う。
参 加 者	最もしっくりきたのは「①ともに歩み、ともに創り、ともに輝く」で、誰もが取り残されず主役でいられるといったニュアンスを感じられる。皆が参加できる、つながれるということを感じられるのが①のフレーズだと思う。
参 加 者	まちづくりの将来の姿であるため、ある程度具体的なイメージにつながるものが良い。「風土を尊び…」は、抽象的でまちの将来をイメージしにくい。①の「交流とにぎわいのまち」といった表現は、まちの姿をイメージしやすい。②も少し抽象的で、まちづくりとしては直接結びにくい感じがする。①が最もまちづくりをイメージしやすい。

参 加 者	③の「次代へ渡す」という言葉は大事である。①にこのニュアンスも入れると良い。説明文をもっとわかりやすい表現にしてほしい。「人たちがともに歩んで、岩国の未来をともに創り、そしてともに輝くことによって、活力に満ちたにぎわいのあるまちを将来像として目指していき、そして次代へ伝えていきます」といった表現はどうか。直接的に書かれた方が分かりやすいと思う。
参 加 者	「次代へ渡す」の「渡す」は、錦帯橋の架け橋をイメージさせる言葉で、良い印象を持った。三つ目の説明文については、米軍基地での国際交流、多文化交流を受け入れてきた歴史を、日米交流だけではなく、他県や国外からの移住者等を受け入れるときにもアピールして良い岩国市の魅力ではないかと思う。
座 長	38 ページのスローガンは1 案目が分かりやすく、39 ページの文章表現は、もう少し分かりやすくし、「次代へ渡す」という言葉や、「多文化との交流」についても一番上の文章に取り入れて作り変える、スローガンは一番上にするが、説明文は三つの文章を組み合わせて出してはどうかという御意見だが、事務局はどうか。
事 務 局	将来像については、これはという表現に絞り切れず3つの案を示しているが、40 ページの市民憲章の言葉を大事にしていきたいと考えており、それと新たに今後取り組んでいく、例えば「時代」「先端技術」や、これまで培ってきた歴史や伝統等と併せて、今後は人材育成等も大事になってくると思うため、そうした基本理念も組み合わせて将来像として提案させていただいた。説明文については、まだ十分練られていない部分もあるため、いただいた御意見をしっかりと踏まえて、良い文章にしていきたい。
座 長	皆さんの御意見は十分に伝わったと思う。今後は、1 番をベースにしながら作り変えて、次回にその案を提出していただき、もう一度確認させていただく。

4 基本計画について

(事務局説明)

参 加 者	書いてあることは確かだが、それを本当に具体化できるかが気になる。
事 務 局	これは今後 10 年間岩国市が進めていきたい事業について記載しており、これに向かって推進していくということである。
座 長	より具体的なことは、総合計画の下に都市計画マスタープラン等の個別計画があり、またその下に事業計画等があるといった形式になっている。体系を示している総合計画を見て、具体的にできるかどうかを判断できるかは難しい問題である。
事 務 局	これについては、総合計画の下にある実施計画や、各課が持っている個別の計画等に基づいて事業を推進していくため、ここに具体的な個別の事業の記載がなくても実施しないということではない。下位の計画において事業を進めていく。
参 加 者	3 ページ「①子育て家庭への支援」について、子育ての家庭に金銭的な支援が必要ではないかと思う。結婚するだけで補助があっても良いかもしれないし、出産時に 50 万、100 万円を渡すなど、子育て家庭に大きな支援をしないと少子化に歯止めがかからないと思う。「子育て家庭への支援」という文言だけでは、宙に浮いてしまうのではないか。

	金額は記載できなくとも、補助金を支援するなど明確に記載をした方が良いと思う。
	25 ページ「施策 1-4-1 医療体制の堅持」については、もう少し詳しく記載をした方が良い。市としても難しい部分ではある。もう少し実態を書かないといけなく感じる。少し専門性が入るとはいえ、医療は非常に大切である。ぜひ御検討いただきたい。
	11、12 ページ「がん検診の受診率」が指標に位置付けられており、残念なことに山口県はがん検診受診率が全国で最も低い、指標の上がり幅があまりに大きいのではない。2020 年までの 10 年間でパーセンテージがどうだったかを見れば、7 年で 2.5 倍になるとは考えられない。もう少し現実を見て検討していただきたい。
座 長	第 2 次総合計画の 42 ページに、指摘された医療費について助成をするなど具体的に書かれてあるが、今回はまだ子育て家庭への支援について 2 行しか書かれていない。前はしっかりと書かれてあり、これから文章を足していくという認識でよいか。それとも今回はシンプルにいきいたいということか。
事 務 局	今回は、取組の内容について具体的なところもそうでないところもある。少し集約して記載することを検討しているため、前回の項目が記載されていないところもあるが、言葉として読み取れるような形にして整理していきたいと考えている。
	子育て家庭支援については、具体的に補助金の金額は書けないが、医療費の助成や記載はないが出生祝い金等の支援制度はあるため、分かりやすく表現していきたい。
	数値目標の御指摘に対しても、担当課と協議、調整し、検討させていただく。
参 加 者	岩国市は、小中学生の医療費の自己負担がない。それは山口県の中でも早く始めている。それも含めて、岩国がこんなにも頑張るという PR ができれば、岩国市に住もうかという人が増える可能性もある。他の県内の市町からすると、岩国市は予算的にかなり潤沢にあると思われており、実際に予算もあるため、子供たちにできる限り手厚く何かがあればよいと思う。
座 長	前回に比べて、あまりにも文章量が少ないように感じる。具体的に記載できる部分については、できるだけ施策の内容等について文章を加筆した方が良いのではない。御指摘のように、これだけを見てもよく分からない部分もあるので御検討いただきたい。
参 加 者	奨学金をもらっている学生が相当数いる。経済的に非常に厳しい状況の学生もいて、奨学金を返済するのも大変だと聞く。山口県で保育士の資格を取り、県内で 5 年間保育士として勤務すると 260 万円の返還義務がなくなるという奨学制度があるが、こうした制度があることは有難い。下関市や柳井市など保育士に対する奨学制度等をされているところもある。岩国市も保育士不足と思われるため、保育士養成に対する支援があると有難い。学生が広島や都会に出ていく一面もあるが、経済状態が厳しい状況があると思う。市内で通学でき、市内で就職できれば良いと思う。様々な状況の中で、子育ての一つとして保育士の育成があると良い。
事 務 局	子育てに関わる保育士の人材確保は、確かに重要である。地元の大学で資格取得も可能であるため、そのメリットを生かせる施策があればと思う。検討させていただく。
参 加 者	奨学金で資格を取得し、地元で就職される場合、他府県との給与水準も重要だと思う。できるだけ地元に残ってもらえるよう、働きやすい賃金にすることが大事である。

参 加 者	東広島市は、保育士として働いてくれる人に支援金を出しているが、様々なことをしているところが結構ある。しかし、県境であるため、やはり広島の吸収力は大きい。
参 加 者	保育士だけでなく、看護学校の学生などもその状況があると思う。
参 加 者	デジタル関係においては、国の動きも見えていく必要がある。政府も「デジタル田園都市国家構想」の方針を掲げており、基本方針案ではあるが、地域の課題を解決するためにデジタルの力を活用しようと示している。地域の社会課題解決の観点でいうと、人口減少や都市部への一極集中、産業の自動化等をデジタルの中で解決していくことを目指している。デジタルの活用を考えたときに、言及がデジタルを活用した人材育成程度になっている。山口市等では、スマートシティに取り組むといった記載もあり、総合計画の中でも Society 5.0 の位置付けの中でスマートシティに取り組み、そのスマートシティの中の指標として、最近ウェルビーイングと言われている満足度を高めていきましょう、持続可能なまちにしていましょうといったことを盛り込んでいるところもある。そうしたエッセンスを岩国市の総合計画にも入れてはどうか。デジタルが地域課題解決に一役を担うことに皆さんも異論はないと思われる。デジタルを活用した地域課題解決に取り組んでいくことを掲げ、市民の皆様に伝えるのは良いことだと思う。また、それを実現することで、満足度や岩国市に住むことによる幸福度も上がっていくと伝えることができれば、デジタルに関する内容を理解していただけるのではないかな。
事 務 局	129 ページ「行政手続のオンライン化、A I ・ R P A の導入による事務事業の効率化」等を記載しているが、庁内会議においても D X に関する記述について意見があり、それを踏まえて、できる限り盛り込んでいく形で考えている。スマートシティという言葉もあり、今後は行政サービスの向上に向けて、満足度などの指標を用いながらサービスの向上に向けた取組等も必要になると思うため、表記について修正させていただく。
参 加 者	行政サービスのデジタル化は進めていくべきだと思うが、行政内部のデジタル化だけで解決することではないため、表現方法を検討していただきたい。
座 長	デジタル田園都市国家構想もそうだが、スマートシティという言葉は、約 10 年前から世界中で使われている言葉であり、新技術、特に I C T を使った新しいまちづくりや市民生活の充実、子育てなど様々な分野でスマートシティが進んでいる。総合計画の中でスマートシティという言葉がどこにも出てこなければ、岩国市は大丈夫なのかと言われかねない。ぜひスマートシティあるいはデジタル、D X 等を含めて、国の中で動いている言葉はしっかりと記載しておくことを検討していただきたい。
参 加 者	資料 2 の 45 ページの将来人口推計について、4 つのグラフのうち 2 番目から 4 番目は与えられた条件をクリアした場合のグラフになっている。岩国市の総合計画を立案するに当たり、将来人口は非常に大きな要素であると認識している。46 ページに岩国市内の人口の推移が記載されているが、年齢別構成は、おそらく高齢者の割合が多く、若年層の割合が少ないと思われる。例えば、高齢者の割合が高い場合は、健康寿命を延ばすために医療を充実させることが得策かもしれない。若者の割合が少ない場合は、子育て支援や小中学生の医療費無償化、給食費の無償化等は、非常に魅力的な武器になると思っている。そのため、総合計画を立案するに当たり、どの年齢層にスポット

	を当てるべきなのか。若年層が少なければ、そこにテコ入れとして子供たちへの支援や親御さんへの支援が必要かもしれない。全ての年齢層、全員が満足する施策を打つことは、非常にお金がかかり実現困難である。人口ピラミッドを踏まえて、どの世代にスポットを当てるかを考えることが非常に重要だと思う。岩国市の人口ピラミッドが、どのくらいのスピードでどのような形に推移していくのかを議論する必要がある。
座 長	可能であれば、46 ページに年齢階層別構成がどのような形になるのか、どのような課題や問題が発生するのか触れておいたほうがよいと思う。高齢者の増加は間違いのない、高齢者対象の施策ばかりを重視すると若年層が増えなくなるため、バランスの良い施策が必要になる。年齢構成について整理して、触れておいていただければと思う。
事 務 局	年齢構成については、社人研において年少人口、生産年齢人口、老年人口の3階層に分けて推計しており、本文ではなく参考資料として添付したいと考えている。
参 加 者	若者や学生が離れてしまうことについて、人を育てるという意味では、地元で居続けるよりも、一時期外に出て外の視点を持って帰る方が視野も広がって良いと思う。岩国市の子供たちをここにずっと居させるというよりは、都会などで暮らした子供たちを学生の時点で岩国に呼び込んで、少し違う体験をさせてあげるなど、逆に受け入れる施策も考えてみてはどうか。一人暮らしをサポートする制度や、若者の居場所をつくってあげるなど、若者の活躍の場が岩国にはあるということを外にも向けてアピールすることで、外からの若者を受け入れて、ここで経験を積んだ視野の広がった若者がまたどこかに出て活躍するという事になれば、日本全体、世界的にも人を育てるという意味で良いのではないかと思う。 基本構想の25 ページを見ると、産業や観光分野の満足度が低く、医療や防災、子育ての満足度は非常に高い。私自身も岩国市は子育て体制が非常に整っていると実感している。懸念点は、経済や観光分野だと読み取った。施策目標2-1の観光振興や2-2産業と人材、2-6シティプロモーション等の施策をかけあわせると、例えばワーケーション施設を市内に増やすなどの施策を推進すると、一体的な施策の満足度向上につながると思う。これからはどこでも仕事ができるような環境が整ってくると思う。短期間移動して仕事をしながら自然の中で子育てをしているフリーランスもいる。岩国市にも自然豊かな中山間地域があり、国際的な基地との交流もあることから、子育て世代にはとても魅力的な場所であるが、現在、岩国市にW i - F i が整っていて仕事ができるようなワーケーション施設がない。継続的なつながりを作って関係人口になっていただくと移住も検討されるし、人口増加にもつながっていくのではないかと思う。Class Biz. (クラスビズ) を市街地につくられたが、それを中山間地域につくるなど、短期ではなく継続して滞在できるような施設をつくることなどを施策に入れると、デジタル活用等、もう少し全体的に関わった施策になるのではないかと思う。
座 長	38 ページの雇用の促進のU I J ターンによる就業支援等にも関わってくる。
事 務 局	シティプロモーションについては、53 ページに移住・定住の推進の施策を記載している。本市としては、就職や大学進学を機に若者が岩国市を離れる現状があるが、子育て世代においては、ある程度社会減は改善されている状況であり、市としてしっかりアピールしていきたい。ワーケーションについては、中山間地域にワーケーションが

	できる施設を整備する予定である。本市が良い所だと認識していただけるよう様々な施策により、移住定住やU I J ターンを促進し、人口減少に歯止めを掛けていきたい。人口減少をいかに抑制していくかが、これからの本市の課題だと思っている。
参 加 者	岩国市は、男女共同参画において、さくら 21 という情報誌の発行など充実した取組を行っており、これを継続していただきたいと思う。計画にどこまで具体的に書くのかは気になるが、市民が「こうあったら良い」「こうして欲しい」という思いがどうすれば行政に届くのか、市民の声がスムーズに伝えられる仕組みを入れていただきたい。 錦帯橋にコロナ禍とはいえ多くの観光客が来ているが、いくらお金を使ってくれているのか気になる。本市の経済状況は依然として低迷しており、観光に力を入れているとあるが、もっと観光でお金が落ちるような工夫が必要である。計画の中に重点施策として実施することを最初にはっきりと書いた方が良いと思う。先ほど言われたように、出産すると何十万とお金を出すことは、非常に良い考えだと思う。少子化と書くだけでは通り一遍になってしまうため、一番に何をするのか決めてやっていかなければ、何のための計画なのか分からない。結婚するための策も必要である。
事 務 局	できる限り分かりやすく作成し、ここが重点だとわかるように表記していきたい。
参 加 者	資料 2 の 48 ページ「2-5 農林水産業の経営が安定し担い手が増えている」について、目標は非常に良いが、目標を達成するためにはそれ以前の問題がたくさんある。例えば、農地を集約しても田んぼに引き入れる水の問題が解決していないと難しい。事前の下準備ができた上で目標を掲げることは良いが、やってみると難しい問題もある。 岩国市も小さいとはいえ様々な地域があり、地域によって施策も違うため、市から落とす施策ではなく、各支所から上げてくる取組もあっても良いのではないかと思う。
事 務 局	基本目標は各担当部署から上がってきたものを整理している。将来目標はあるが、個別の具体的なことについては、施策において具体的に進めていくことになる。農地の話として、担い手の育成や今後の高齢化をどのように支えていくかといったことも必要になってくる。市として推進していきたいと考えている。
参 加 者	98 ページに空調設備やトイレの洋式化の「達成度を測る指標」が空欄となっているが、山口県は進んでいない。ぜひ前向きな目標を入れていただきたい。 102 ページの文化・芸術について、岩国市に住み続けてもらいたいと考えているのであれば、小中学生のうちから芸術に関わる指標があると良い。 97 ページ「5-1-2 地域と一体となった教育力の向上」の部分について、部活動の地域移行等をはじめ、文科省が示している最新の方針・動向等については、その内容や取組について、基本計画に記載していただきたい。
事 務 局	98 ページの達成度については、最終的には小中学生のトイレの洋式化の指標を使って達成度を測るようにする。今後、数値を入れる。 97 ページと 102 ページについても検討させていただく。
参 加 者	101 ページ「5-2-1 文化・芸術活動の推進」について、活動されている方のほとんどは高齢者だが、そうした場所に小中学生が興味を持って参加することができればと思っている。97 ページに「地域住民と児童生徒が共に考える場を設けている学校の割合」

	とあるが、コロナ禍になる前は、様々な文化活動をされている地域の先生を呼んで授業をし、文化祭で発表していた中学校もある。教育機関と連携して、文化協会の先生方と生徒たちが一緒にできれば、子供たちがもっと興味を持つのではないかな。
事務局	若い頃からそうした伝統文化に馴染むことで興味を持ってもらうことは大事であるため、伝統文化の継承等が見えるような形で整理させていただく。
座長	前回の計画を見ると写真や挿絵が多くある。地域の生徒さんと一緒に活動している写真があれば提供していただき、挿絵として掲載すると良いと思う。
事務局	最終案には、レイアウト等を調整して、写真やイラスト等を盛り込んでいきたい。
参加者	96 ページ「5-1-1 学校教育の充実」の指標について、推進していくのであれば、目標値の数値をもう少し高めにしても良いと思う。例えば、「英語が好きだと思ふ小中学生の割合」について、岩国市が英語教育を売りにするということであれば、60%や65%は低すぎる。教育委員会ともよく打ち合わせて目標値を高めに設定してはどうか。 103 ページ「5-2-2 文化財の保護と伝統文化の継承」の達成度について、もう少し施設整備などのハード的な数字があっても良いと思う。博物館や資料館に相当するような施設がどのくらいあるかなど入れても良いのではないかな。入館者数や参加者数を指標としている項目が多いが、ハード的なものを他の項目にも入れると良いと思う。 英語交流について、生涯学習までを通じて英語に力を入れているということをPRしても良いと思う。生涯学習で英語に絡む授業をしていると思うが記載がない。学校教育から生涯学習に絡めて、英語に関する授業をしていると記載してはどうか。
参加者	SDGs は巻末に説明を入れるなどの対応をしてほしい。また、国土強靱化も含めて説明や解説が必要だと思う。
事務局	検討する。
参加者	SDGs はないといけないのか。漠然としすぎており、ブームの一環に感じる。10 年計画に入れるのはどうなのか。岩国市が入れると判断しているのか。
事務局	SDGs は市だけではなく、全国、全世界が取り組んでいかなければならない目標であり、岩国市としてもSDGsに取り組んでいくことを記載し周知する必要がある。
参加者	市が発行する冊子にこれほどSDGsのマークは付いていないため、一般市民の方は触れる機会がない。計画に記載するのであればもっと周知した方が良い。
座長	57 ページに「3-1-1 幹線道路の整備」とあるが、交通安全を議論する際には生活道路に視点を置くことが多いため、施策名を「道路ネットワークの整備」のように包含して書いていただければと思う。幹線道路だけを造って全てのものが終わるわけではなく、重要なことは道路ネットワークを整備することである。検討していただきたい。

5 その他

事務局	次回は、8月16日火曜日14時に開催させていただき、9月に実施するパブリックコメントの案について協議をお願いする。
-----	---

座長	1 か月後には素案という形でまとめ、その後、市民に実際に文章を見ていただくため、あまり時間のない作業となる。御協力いただきたい。
----	--

6 閉会

以上